

令和5年度別府市人権教育学級 第7回学習会

日時：令和6年1月18日(木) 10:00~11:50

場所：別府市社会福祉会館 多目的大広間

テーマ：部落差別問題 今を生きる私たち—部落差別、なぜ、ありえないはずのものが、ありつづけるのか?—

講師：大分県人権教育・啓発推進協議会 人権啓発講師 一法師 英昭 さん

プロフィール

・高校の日本史の教員として長年勤務。その間、同和教育推進教員として同和教育に力を注ぎ、大分県部落史研究会事務局長として活躍。高校退職後は、佐伯市立歴史資料館の館長を経て、現在、別府溝部学園短期大学と大分大学で教鞭をとっている。部落問題関係の著書多数。



<講師の一法師英昭さん>

講演の概要

1 なぜ、部落差別問題は生まれ、今も無くなっていないのか?

*「江戸時代の部落差別」と「明治時代の部落差別」を理解しよう。

江戸時代の部落差別は、身分差別。明治時代は社会問題としての部落差別。そして、現代の部落差別は「みなされた人への差別」(ふらっと 人権情報ネットワーク)。

2 部落差別をはじめとする差別を無くすために、今を生きる私たちが考え、できることは?→現在の差別の現状を直視し、その現状の是非を自問自答しよう。

*差別をめぐる社会のあり方に気づく。差別をなくすのは誰か?→解決する主体は、「差別される側」ではなく「差別する側」。

*自らの人権感覚のバージョンアップを図る。(新たな知識・理論、考え方を知る)。

・マジョリティ(多数派)の特権 ・アンコンシャス・バイアスとマイクロアグレッション
・性の多様性 ・部落史研究から明らかになった事実「生産と労働の歴史」

*「21世紀の今を生きる私」という自覚を一人一人が持とう。

差別は「してはいけない」のではなく、「**あってはならない、憎むべきもの**」

今こそ断ち切らなければならない、「なにげない 親の差別を 子が学ぶ」の連鎖

多くの人びとの連帯が差別を追い込んでいく

◇学習会を終えて

学べた理由・・・アンケートより一部抜粋

改めて差別への知識や考え方がアップ
デートされた

無意識の中で受け
継がれていく差別
があるということが
印象深かった

歴史から話を
聞いて分かりやす
かった

今まであまり深く
考えてこなかった
「部落差別」に興味
深く学べた

学習会後のアンケートでは、「大変勉強になった」ことはもちろん、「差別は悪だと思いつけたい」「考えて行動していきたい」「身近な問題も逃げずに向き合いたい」「子どもに伝えていきたい」など、部落差別問題を主体的に捉え、これからどう向き合っていくかについての感想が多く寄せられました。アンケートの結果については、今後活かしていきます。